

表示画面にタイルセットを追加する

Google やマイクロソフト、NASA のタイルセットは、ウェブビューワや各社無料のビューワアプリケーションでの表示に最適化した構造を持つ画像や地図を提供します。タイルセットとは、多数の画像ファイルから構成され、必要なサイズや形式、座標参照系を持っています。広大な地理領域を高解像度でカバーしている場合、1つのタイルセット構造には何百万ものタイルファイルが含まれている場合があります。タイルセットの表示に使用するウェブビューワやローカルのビューワのパフォーマンスは、タイルセットのサイズやカバーする解像度および領域の広さとは無関係です。タイルセット構造をインターネットやネットワークで表示すると、ウェブマップサービス (WMS) で要求された表示画面を準備する時のように待ち時間が長くなることはありません。同じ WMS でも、タイルセット構造を用いた WMS の場合はレスポンスタイムは短くて済みます。タイル表示では、表示する場所やスケールに関わらず、わずか数個のタイルを読み込むだけなので、ローカルドライブからでもインターネット経由でも表示が速くなります。

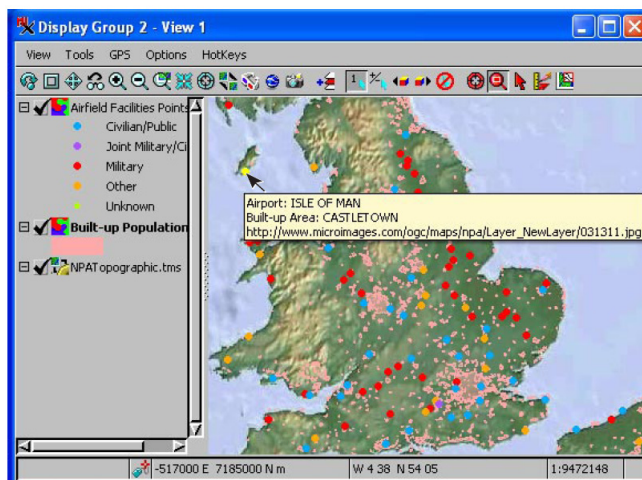
TNTmips のタイルセット

TNTmips では、Google やマイクロソフト、NASA が各社のウェブビューワやローカルの地理データビューワアプリケーション用に定義したタイルセット構造を作成、表示できます。インターネット (またはローカル) 上で公開されたタイルセットは、特別なウェブサーバやサービスを必要としません。タイルは URL を入力すれば簡単にアクセスでき、TNTmips を含めてジオビューワやローカルのアプリケーションにタイルセット内の目的のタイルの場所を表示します。ウェブページ上のリンクによって、ジオビューワを使ってタイルセットに含まれる任意の領域、ズームレベルのタイルを表示できます。TNT 製品は、ローカルまたはインターネットソースから得たこれらのタイルセット構造のいずれにもリンクや表示ができます。ネイティブなタイルセット構造が TNTmips で作成したものあるいは他のソースから入手したものに関わらずリンクや表示が可能です。

TNT では、TNT 製品で直接使用できる形式 (GeoJP2、GeoTIFF、PNG) のタイルファイルにリンクしたタイルセット構造も持っています。他のタイルセット構造はただ1つの座標参照系しかサポートしておらず、タイルサイズも1種類のみです。TNT のタイルセットは8種類のタイルサイズが使用でき、座標参照系も様々なものが使用できます。TNT 製品では、ネイティブな TNT タイルセットも他のラスタと同様に選択できます。他のタイルセット構造 (Google や Bing など) では、関連する TMS (タイルマップサービス) ファイルを選んでタイルセットを選択します。

タイルセットの TMS ファイル

離れた所にあるタイルセットを TNT の表示画面でレイヤとして使用するには、タイルセット構造内のトップ (ま



インターネット上でタイルセットとして提供されているグローバル地形図。ローカルドライブにある飛行場や居住地を示すベクタデータをその上に表示しています。タイルセットのデータタイプには、カーソル位置の表示しているズームレベルのタイルの URL 情報が表示されています。

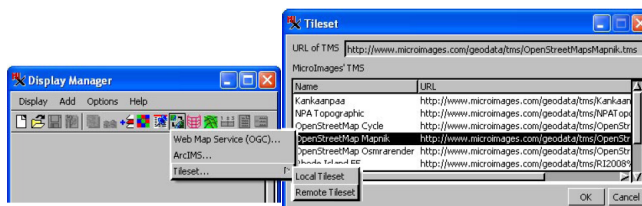
たはマスタ) ディレクトリと同じ名前の TMS (*.tms) リンクファイルが定義されていなければなりません。*.tms ファイルは、TNTmips のタイルセット処理または「Publish Geomashup(マッシュアップの公開)」処理で作成します。個別のタイルセットの *.tms リンクファイルは、次のように様々な場所に置くことができます：

- ローカル。タイルセットのマスタディレクトリと一緒に。
- ローカル。ただしローカルネットワークまたはインターネットサイト上のタイルセットにリンク。
- インターネット上のタイルセットと一緒に。TNT から URL でアクセス。

TMS ファイルは XML 形式のテキストファイルであり、タイルセットの URL や相対パスを含み、構造やタイル形式、範囲、座標参照系およびズームレベルなどの情報を含んでいます。

タイルセットの選択・表示

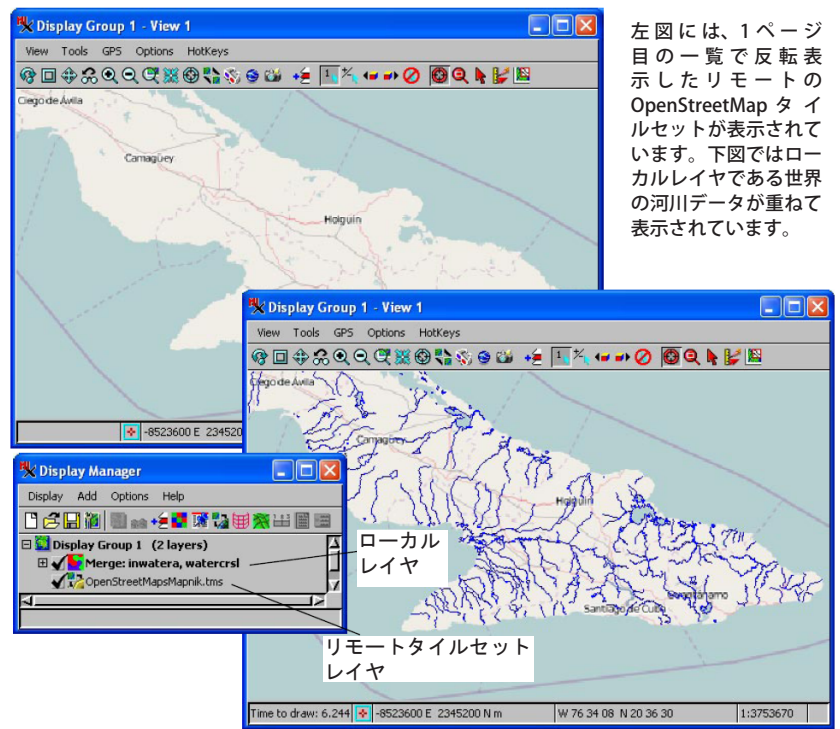
タイルセットの格納場所は遠隔地でもローカルの PC でも構いません。表示画面にタイルセットを追加するには、まず「リモート (遠隔地)」または「ローカル」のタイルセットを選びます。*.tms ファイルにリンクしたローカルのタイルセットは、通常の方法で選択できます。TMS ファイルには、ローカルドライブやネットワーク上のタイル位置を記述する相対パスの情報が含まれています。



マイクロイメージ社のウェブサイトには、様々なウェブビューワ形式に対応したサンプルタイルセットが TMS リンクファイルとともに提供されています。

リモートタイルセット

リモートタイルセットは URL によってアクセスできます。タイルセット中の個々のタイルは、タイル位置を定義する TMS ファイル内の URL で決められています。様々な構造を持った多数のタイルセットがマイクロイメージ社のウェブサイトから選べます。これらはインターネットを介した表示にタイルセットを使うことの利点を示す好例です。これらのタイルセットは、リモートタイルセットレイヤを追加する場合、一覧表示されます。一覧にない場合は *.tms ファイルがあるタイルセットの URL を入力します。他のウェブレイヤ (WMS や ArcIMS レイヤ) と同様、タイルセットはローカルレイヤや他のウェブレイヤと混ぜて使用できます。



左図には、1 ページ目の一覧で反転表示したリモートの OpenStreetMap タイルセットが表示されています。下図ではローカルレイヤである世界の河川データが重ねて表示されています。

